
今日の力

2022年1月3日～1月9日

翻訳 鈴木 慈久

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月3日(月)

恐怖と向き合う

聖書朗読 詩篇46

それゆえ、われらは恐れない。

詩篇46:2

地震や災害、文明の終わりに関する映画は、人々を引きつけ、多大な興行収入をあげています。また、近頃のニュースで、このまま海面上昇が続いた場合に、どんな大変なことがこの地球上に起こるかを私たちは頻りに目にします。まるで、私たちにおこる災害が予言されているかのようです。この世界の変化に時として私たちは圧倒されてしまいます。

しかし、これらの恐怖は、今に始まったことではありません。人々は、このような恐怖と戦ってきました。聖書にもそのようなことが、詩篇46篇に書かれています。そこには、現代のような恐れに対する言葉が書かれています。地が変わり、山が崩れ、唸る海が襲い掛かり、戦争と戦争のうわさが溢れると。私たちの時代の恐れと似ているように感じられませんか。

しかし、私たちは恐れません。神様は困難な時の私たちの避け所であり力なのです。

今日、あなたはどのような恐れを感じていますか。テロリストへの恐れですか。または、諸外国の政治的対立、または、若いへの恐れなどでしょうか。しかし、それらの恐れは、神様の前に何の意味もありません。神様はあらゆる困難の中で、私たちに「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」と言われます。

讚美歌 270

祈り 親愛なる神様、私たちが世界を圧倒する恐れと向き合う時、あなたの威厳によって私たちを慰めてください。あなたが共にいてくださると知ることによって、私たちに勇気を与えて下さい。

イエス様の御名により、祈ります。アーメン。

ジェフ・ダン

テキサス州 スナイダー

1月4日(火)

大きな天幕

聖書朗読 詩篇61

私たちの住まいである地上の幕屋がこわれても、神の下さる建物があることを、私たちは知っています。それは、人の手によらない、天にある永遠の家です。

Ⅱコリント5:1

もはや、「テント」ということばはアメリカでは死語になりつつあります。サーカスの「大テント」や、「野外集会のテント」によるリバイバルなどは、今や歴史の中のことばとなっています。しかし、一方、今でも「テント」ということばが使われている分野があります。それは、政治の分野であります。政党が自分たちの組織を宣伝するときに使います。それぞれの考えを持つ人の集まりごとに「大テント」と呼んでいます。

しかし、究極の「大テント」は、どんな政党のグループの集まりではありません。テントとは神様ご自身の住まいなのです。ですからダビデが「私は、あなたの幕屋に、いつまでも住み・・・たいのです。」(詩篇61:4)と書くとき、それは実際のところ非常に大きなテントのことを書いているのです。ペテロは世界がまだ終わっていない理由がそれであると示唆しています——つまり「主は・・・あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」(ペテロⅡ3:9)

神様のテントには、すべての人のための場所が用意されてあります。あらゆる種類の人々がその中に収まることができます。イエス様のおかげで、讚美歌が思い出させてくれるように、誰もがそこに入ることができるのです。キリストの呼びかけはすべての人のためのものです。ですから、どうぞ、いらしてください！

讚美歌 199

祈り 天のお父様、私とそしてイエス様に従うことを選んだすべての人のための場所を用意して下さっていることに感謝します。私が会う全ての人々があなたの子であり、あなたのテントに入る者として見る事ができるよう、私の目を開いてください。

イエス様の御名により。アーメン。

ジョシュ・ボイド

インディアナ州 ラファイエット

1月5日(水)

神様はすでにご存じである

聖書朗読 詩篇68

神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって・・・

ローマ1:20

宇宙であれ、地球であれ、海であれ、未知への探求は人の心を躍らせます。1998年にボイジャー2号が宇宙空間に旅立って、ニュースの見出しを飾った時のことを覚えていますか？ しかし、神様にとっては、それらは全て未知のことではありません。なぜなら、神様は宇宙を作られたお方だからです。神様には宇宙船も、望遠鏡も、科学も必要ありません。人間は未知のことを知ることを渴望しますが、神様はそれらのことはすでにご存知なのです。神様は、人間が地球は丸いこと、あるいは太陽が自分たちの太陽系の中心であることを発見する前からおられるお方です。もし科学者が「新しい」生物を発見したり、「失われた」文化を発見するなら、神様はそのことをお喜びになるに違いありません。

しかし、神様にとって見知らぬもの、新しいもの、失われたものは何一つとしてありません。神様には未開拓分野も、未踏の地も、未発見の島も、未探索の惑星も存在しません。神様は車輪、電気、電話、飛行と宇宙航行、低温殺菌、レーザー、燃焼エンジン、綿織り機、人工衛星、マイクロウェーブ、コンピュータチップ、そしてペニシリンもすべてご存知なのです。立ち止まって、神様の英知と御力に気付いたとき、ダビデが主をほめたたえたように、私たちも主をほめたたえましょう。

讚美歌 Ⅱ59

祈り 私たちのお父様、私たちを助けてください。知識を誇るプライド、自分の功績への自慢、持っているものへの信頼、そしてあなたの御力よりも自分を信じる思いから離れることができますように。

イエス様の御名によって、祈ります。アーメン。

ボブ・マイズ

テキサス州 ラボック

1月6日(木)

私を助けてください、主よ！

聖書朗読 詩篇70

私を滅びの穴から、泥沼から、引き上げてくださった。そして私の足を巖の上に置き、私の歩みを確かにされた。
詩篇40：2

パンデミックの間、私たちはストレスを感じ、恐ろしくさえなったのではないでしょう。私たちはしばしば惑いました。「いつまで続くのか?」「何が本当のことなのか?」「これは果たして終わるのだろうか?」と。私たちは長いこと、マスクのこと、ソーシャルディスタンスのこと、失業のこと、休校のこと、制限された教会の礼拝のこと、そして自分たちが日々の生活のコントロールを失ってしまったことを忘れることはできないでしょう。

ダビデは敵から、そして自分自身の罪からの救いを必要としていました。救いの喜びを待ちながら、彼は自分に悩み、そして自分を貧しい者であると告白しました。それでもダビデは、主が今でも彼を「顧みて」くださることを疑わず、神様が自分の「助け」であり「救い主」であり、主はすぐに行動を起こしてくださると確信し、「滅びの穴」や「泥沼」から助け出してくださった主が、もう一度同じことをしてくださると確信していたのです。

ダビデのように、私たちは人生の中で行き詰ったと覚えることがあるでしょう—自分の過去に、環境に、罪に。神様は私たちを自由にすることを望んでおられます。私たちはそのことに確信を持つことができます。神様は私たちを穴の中から引き上げてくださり、私たちの足を巖の上に置いてくださいます。ダビデのように、私たちは助けを求めて神様を呼び、そして神様が行動されるのを忍耐強く待ちます。あとは神様がやってくさるでしょう。

讚美歌 291

祈り 主よ、私たちは外からも内からも、私たちを滅ぼそうとするものに包囲されています。しかしあなたは私たちの助けであり救い主です。助けてください、主よ！ イエス様の御名によって、私たちは祈ります。アーメン。

デイル・フォスター

テキサス州 サイプレス

1月7日(金)

讚美の価値

聖書朗読 詩篇100：1～5

すべてのことについて、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたに望んでおられることです。
Iテサロニケ5：18

詩篇100篇には二つの表題が与えられてきました。ある訳では「讚美の詩篇」という表題が、他の訳では「感謝の詩篇」という表題です。この二つの言葉は、4節の「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、はいれ。」から来ています。この詩篇が書かれた時代には、この箇所は、ソロモンの神殿にいる神様を礼拝することを指していたことを思い出してください。しかしながら、神様を礼拝するために与えられたこの二つの表題には、その時代と同じく現代においても同じくらいの意味があります。

私たちは神様が何者であるか知って讚美します。神様は私たちの造り主です。神様が私たちを造られました。私たちは神様のもので、その牧場の羊です、なぜなら神様が私たちをイエス様の血によって贖われたからです(Iコリント6:20)。私たちは、神様が私たちのためにしてくださったあらゆることについて、神様に感謝します。神様は、全てにおいて、私たちにとって最良のお方です。私たちに対する神様の慈しみと恵みは決して終わることがありません。神様の真実は、求めるすべての人の手の届くところにあります。私たちに対する神様のあらゆる祝福のゆえに、神様を讚美し、神様に感謝しましょう。

讚美歌 II191

祈り 親愛なるお父様、私たちがあなたを知り、なぜあなたが讚美と感謝にふさわしいのかを理解できるように助けてください。私たちが、賛美しつつ主の門とその大庭に入ることができますように。

イエス様の御名によって。アーメン。

セラース・S・クライン・ジュニア

テネシー州 ヘンダーソンヴィル

1月8日(土)

真実であり生きておられる神

聖書朗読 詩篇115:1~8

彼らの偶像は銀や金で、人の手のわざである。・・・これを造る者も、これに信頼する者もみな、これと同じである。
詩篇115:4~8

ハワイのオアフ島では、平等院テンプルはバレー・オブ・ザ・テンプルズ記念公園の中のコオラウ山の麓に位置しています。そこには孔雀と鯉が住んでいます。建物の周りを小路が囲んでいて、鏡のような池と小さな滝があり、それ自体の美しさによって訪問者に黙想を、礼拝を、休息を促しています。

寺院の中には、金色の葉に覆われた巨大な仏像が座っています。私たちが訪ねた時、そこに入るために靴を脱ぐように言われました。私たちは、訪問者たちがどっしりした仏像の土台に食べ物や果物、花を皿に載せたものを置いていったのを見ました。しかし仏像は語ることもなく、自分のために置かれた食事を食べることも、花の匂いがかぐこともしませんでした。仏像は、人々が礼拝のために来ている間、そのささやきを聞くこともなく、言いつけを実行したことに対して名誉を与えることもしませんでした。その仏像は生きてはいなかったのです!

「しかし、主はまことの神、生ける神、とこしえの王。」(エレミヤ10:10) 永遠の力と聖なる性質をもって天と地とその内にあるすべてのものを造られた神は、私たち一人ひとりを知っていてくださいます。私たちは真実であり生きておられる神に仕えているのです。神様が生きておられることを喜びましょう!

讚美歌 II 191

祈り 親愛なる主よ、あなたが生きておられる神であり、唯一にして真実であり、栄光を帰され、ほめたたえられるべき神様であることを知ることができるように、私たちに気付きを与えてください。私たちが、本当のこととそれ以外を見分けることを怠らないようにさせてください。

イエス様の御名によって、私たちは祈ります。アーメン。

コニー・シンプキンズ・トーマス

ケンタッキー州 マウント・ワシントン

1月9日(日)

いつくしみ深い豊かさ

聖書朗読 詩篇135:1~5

ハレルヤ。主はまことにいつくしみ深い。主の御名にほめ歌を歌え。その御名はいかにも麗しい。
詩篇135:3

ケアセンターの90歳の入居者が認知症を患いました。しかしながら、時々、認知症の症状に光が差し込むのです。例えば、その女性の息子が、ある夕方母親を訪問した時に、「お母さん、夕飯は何を食べた？」と尋ねました。彼女は思い出すことができませんでした。ついに彼女は、「一つも思い出せないわ。でも、とっても豊かだったわ」と言ったのです。

私の母は良く「慈しみ深い豊かさ」と言ったものです。神様は私たちに必要な物を与えて下さいます。神様は「良い方」であるから、そうすることができます。神様は地上の支配者がするように、自分自身のために物——金、領土、権力——を集めようとはなされません。その代わりに、神様はご自身の民のために良いものを与えます。「天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。」(マタイ5:45)

神様は慈しみ深い方です。神様はご自身の親切さゆえに、自分の子どもたちの利益を求めることに喜びを見いだされます。そして神様は、自分の与えた物を子どもたちが他の人と分かち合うのを見ることに喜びを見いだされます。なぜなら神様は「良い方」で、かつ「慈しみ深い方」であり、そこには私たちのための「慈しみ深い豊かさ」があるからです。

讚美歌 312

祈り 私たちの父であり私たちの神であられる方、今日も、そしていつの日も、あらゆる讚美があなたに捧げられますように。あなたは良い方であり、慈しみ深い方であられるからです。あなたの寛大さは私たちを圧倒します。あなたの愛が私たちを包んで守ってください。あなたの御名をほめたたえます。

イエス様の御名によって、私たちは祈ります。アーメン。

ポール・L・ワトソン

ノースカロライナ州 ダーラム